

第3回 持続可能な都市づくり懇談会 発言要旨一覧

発言骨子	要 旨
<p>計画策定におけるデータの見せ方・根拠付け</p>	<p>○都市マスやまちなか再生本部会議報告書など、これまでの計画の進捗状況を把握し、実現したもの、<u>実現した要因等を分析した上で誘導施策などを立案</u>することが重要。</p> <p>○本当にインフラ（道路・上下水道）を整備したことで土地利用が変わった等、インフラ整備効果があるのか、データで根拠付けし計画に反映することが重要。</p> <p>○立地適正化計画が実効性のある計画にするため、都市の問題意識である人口減少の中で、土地のリサイクルが促されるような計画にすることが重要。</p>
<p>誘導区域の考え方</p>	<p>○<u>現状追認ではなく、将来どうなるのかを見据えて区域設定した方がよい。</u></p> <p>○区域設定の路線バスの条件に100本/日以上としているが、今後どうなるか分からないので、表現に配慮が必要。</p> <p>○<u>公共交通の持続的な維持</u>という観点から、<u>都心への集約に舵を切る</u>など、<u>思い切ったことを検討</u>することも必要。</p>
<p>拠点の考え方</p>	<p>○東区の地域拠点は中央区と一体となっているが、東区にも特性がある。<u>東区にも拠点</u>があった方がよい。</p>
<p>他計画との関連性</p>	<p>○今後、人口動態に合わせて、子育て施設など施設の整理も必要となってくるが、そういった子育て<u>政策と整合を図る</u>ことが必要。</p> <p>○誘導区域外に施設が必要な場合に、規制等で足かせにならないか不安。</p>
<p>誘導施策のあり方</p>	<p>○<u>居住誘導が厳しいエリアもある中で</u>、そのようなエリアと他のエリアにおいては、<u>誘導施策を分けて議論</u>することが必要。</p> <p>○駅周辺でも人口が減少しており、<u>公共交通と人口増加が連動するの</u><u>か疑問。</u></p> <p>○人口が増加し、土地がリサイクルするインフラを把握し、計画に反映した方がよい。</p> <p>○マンションが人口増加の要因であるのなら、50年後においてもそこに住み続けられるように維持管理を促していくことも必要。</p> <p>○区画整理で人口が増加したのなら、その後、土地のリサイクルがされている場所の特徴を把握し、将来像を描くことが必要。</p> <p>○誘導区域全体を見るのではなく、<u>核を決めてモデル的</u>に行った方がよい。古町から万代には、何をすれば人が呼べるのか等、<u>的を絞って取組んだ方がよい。</u></p> <p>○どこにどう集めてどうするのかについて考えることが大事で、そのためには範囲をしっかりと定めて考えた方がいい。</p> <p>○<u>拠点性を高めるために何をやるのかが一番重要</u>であり、そのために</p>

	<p>も早くエリアを決めるべき。</p> <p>○エリアを決めたら市役所の全セクションがそれに向かって、実効性ある施策に取り組んでいくことが大事。</p> <p>○何をどうするのかもう少し<u>ポイントを絞った方が説得力を高めること</u>につながる。</p> <p>○公共交通など<u>条件が揃えば、郊外であっても人は住んでもらえる</u>ものと、実際に感触を持っている。議論の場を通じて、交通体系に関する案を出したい。交通体系を備えて欲しい。</p> <p>○<u>まちの顔をどこにするのかが大事</u>で、信濃川から朱鷺メッセなど、そこへのアクセス手段、または行きたくなるようなもの、<u>目的が必要</u>。</p> <p>○昼夜間人口や市内以外からの流入人口など人口動態をしっかりと整理し、拠点エリアについて再度精査して欲しい。</p>
目標・評価	○ <u>現状を踏まえ、今後どのようにデータが推移していることを望むのか、どのような形にしたいのかとリンクした形で目標設定（KPI）</u> を示せるとよい。
人口密度の表現の仕方	○まちなかの商業系・業務系区域の人口密度について、人が住まない場所を含めると人口密度が低く表れてしまうので、表し方を考えた方がよい。
住民への説明	○パブコメや住民説明の際、住民が疑問を持ったり、誤解がない様、丁寧に説明して欲しい。